

令和2年度

民間企業等長期派遣型研修報告書

令和3年12月

静岡県教育委員会

事業概要

目的	教育職員が民間企業等の最新かつ実践的な組織運営、技術、技能、システム等を学ぶことにより、教科等の指導技術や能力等の伸長による児童生徒への指導力の向上、視野の拡大と発想の転換等による意識の改革、時代の変化に対応できる学校づくりの推進等に資する。
対象	・ 45歳以下で静岡県の教育職員としての職務経験が5年以上の者 ・ 小中学校、義務教育学校、高等学校の専門教科（農・工・商）、特別支援学校の教員等の中から選考
期間 (人数)	小中学校、義務教育学校：6か月(2人) 高等学校：12か月(2人) 特別支援学校：6か月(2人)

目次

研修の報告

所属	研修生	研修先	ページ
静岡市立清水桜が丘高等学校	小泉 真由子	静岡信用金庫	1
静岡県立掛川工業高等学校	杉村 竜也	協立電機株式会社	3
静岡県立御殿場特別支援学校	鈴木 泰洋	株式会社ゴトー	5
静岡県立浜松特別支援学校城北分校	松本 靖正	遠州鉄道株式会社	7
函南町立東中学校	後藤 卓	株式会社Z会	9
焼津市立和田小学校	寺尾 義一	はごろもフーズ株式会社	11

企業御感想 13

資料

民間企業等長期派遣型研修実施要綱 15

静清信用金庫

研修期間：令和2年4月1日～令和3年3月31日

所属/氏名：静岡市立清水桜が丘高等学校 教諭 小泉真由子

研修の内容

1 人事部業務に関する研修（4月から9月）

新職員基礎研修、ビジネスマナー研修、コンプライアンス研修、仕事の原理原則、組織とチームワーク研修、電話対応研修、信用金庫の業務理解、諸規定、防犯体制、セールスの基礎、新型コロナウイルス対応状況把握、庫内通知文入力及び掲示作業、オペレーション研修、事務規定研修、新職員配属店臨店、新職員フォロー研修、内定者顔合わせ会(Zoom)、融資研修、公募型インターンシップ、令和3年度高校生入庫内定式、令和3年度新職員研修 等

2 経営相談部業務に関する研修（10月から3月）

静岡商業高校コラボ企画作成及び伴走支援、発表大会運営、ものづくり補助金に伴う同行訪問、企業向けリーダーシップ研修同行、金庫冊子「View」取材、庫内報作成、歴代庫内報確認、事業承継案件同行訪問、M&A案件同行訪問、知財アイデアプレゼン大会商品化発表会 等

3 地域貢献活動における研修 ～学校との連携・協働活動～（人事部・経営相談部・駒形支店・大坪支店・清水支店）

(1) 静岡商業高校とのコラボ連携企画（7月～1月）

駒形商店街訪問、駒形商店街有志団体との連携、静岡大学地域創造学環の皆様との連携、久能いちご農家・駒形商店街パン屋訪問（新商品開発）等

(2) その他学校との活動

静岡中央高校金融教育及びマナー教育（9月）、静岡大学附属小学校金融教育（9月）、駿河総合高校SDGs講話（10月）、島田商業高校「進路学習会」金融教育及びキャリア教育（11月）、清水桜が丘高校金融教育及びキャリア教育（11月、1月）、富士高校教職員向けSDGs講話（2月）、富士高校生徒向けSDGs講話（2月）

研修を終えて

1 はじめに

学校と地域が連携・協働し、さらには企業等との連携が求められている今、教科「商業」の学びのなかに、地域課題等に向けて企業と連携し取り組む教育活動を今後取り入れたいと考え、地元地域をよく知る地域密着型金融機関を希望した。そしてその中でも歴史が深く、県内中部をエリアとする「静清信用金庫」で企業の取組を研修することにより、これからの「探究学習」において、学校では得られない学びのフィールドを探るきっかけにしたいと思った。

2 研修先の概要

『静清信用金庫』創立：大正11年3月11日（1922年）預金：8,441億円 貸出金：3,804億円（令和2年9月30日現在）

地域社会の繁栄と、お客さまの信頼にお応えすることを第一に考え「健全経営」と「お客さま志向」の継続に加え、2022年の創立100周年に向け「相談力」の磨き上げにより、地域に信頼される信用金庫の実現に努めている。

3 研修を終えての感想

(1) 人材育成について

4月、社会全体が新型コロナウイルスによる緊急事態宣言下で未曾有の事態に陥っているなか、新たに入庫された新職員の皆様のために、人事部が中心となり様々な研修を実施した。感染対策等の企業の危機管理体制を間近で感じながら、苦しい状況の中でも組織の目的や方向性を持ち、

経営理念に沿って様々な研修を丁寧に行い、私も研修初日から新職員の皆さまと共に一から“ 静清信用金庫 ” を学ぶことができた。これらの研修から、組織はチームワークが重要であり、良好な人間関係の構築のために「コミュニケーション」がいかに重要であるかを改めて理解することができた。

また、金庫では職員にWeb教育（eラーニング）を実施しており、更に加えて職責に応じた研修なども多数実施されている。資格取得に向けたバックアップ体制も整っており、まさに“ 金融のスペシャリストの育成 ” に力を入れていることがわかり、学び続ける必要性に気付かされた。同時に、常にスキルアップを心掛けながら新しい学びを柔軟に受け入れ、チャレンジし変化することを忘れてはならないと感じた。様々な研修を通して、今後の教員人生において軸となる仕事に対する意識や取り組む姿勢、教員としての心構えを再認識できたことは本当に有難い。

(2) 相談力

静清信用金庫は「相談力」を強みとし多くの地域の方々へ支援を提供され、今後もその磨き上げ強化に励んでいる。その中枢を担う経営相談部とはお客さまの様々な経営課題の解決をサポートされている部であり、日々多くのお客さまとの信頼関係を構築し、お客さまからの相談と共に意向に沿った様々な対応をされている。常にお客さまの気持ちに寄り添った姿勢で仕事をしている様子を見ることができ、場面に応じた相談部の皆さまの所作振る舞いなどの言動は「商業」を学ぶ者として生徒たちに身に付けてほしいものばかりだと感じた。「明るい挨拶」「笑顔」「人の話を聴く姿勢」などの学校生活の基本に加え「自らをアピールする積極性」は今後の教育活動において探究心を刺激して養うべきものだと思う。そしてこれらの前にはまず「相手に伝わる話し方」が大前提として必要であることも学んだ。教員の基本業務である「授業」のわかりやすさには教員の伝える力が何よりも重要である。生徒たちが学ぶ意欲や姿勢を持ち、知識や理解を深め興味を抱き、自ら考えることができるような「伝わる授業」を心掛けていきたい。そしてその中で、生徒の声をじっくりと聴くことを忘れずに相談部の皆さまの「傾聴スタイル」を見習い、主体的で対話的な深い学びに繋がるように生徒一人ひとりの声に対応していきたい。

(3) 地域貢献活動

「人と街を繋ぎ、持続可能な社会づくりに貢献していくこと = SDGs への取組」の考え方を軸に地域密着の金融機関として地域貢献活動や環境活動を大切にされている。ただし、研修期間中は新型コロナウイルスの影響で多くの地域行事は中止となり、各種イベントに参加することがなく、金庫が主催予定であった多くのイベントも中止となってしまった。そこで、こんな時だからこそ若い高校生の力で地域を盛り上げたい、金庫のお力で学校と地域を繋ぎ何かできないかと考え、金庫の皆さまのご協力をいただき近隣の商業科を設ける学校等との産学連携企画が動き出した。これらの企画を進める過程での、企業の企画から実行までの「スピード感」「決断力」「行動力」には驚愕した。そして企画が進むにつれ金庫の皆さまの企業人としての「使命感」も肌で感じる事ができた。さらに、仲間を信頼し日々取り組んでいる当たり前前の積み重ねと、仕事に対する精神力によって様々な地域貢献活動は成し遂げられていることを実感することができた。この経験を活かし、今後地域と連携・協働し進めていく教育活動に結び付けていきたい。



4 おわりに

民間企業研修として一年間、本研修にご理解のある静清信用金庫でお世話になり、私の教員人生そのものが改めて見直されたと同時に新たに進むべき道を教えて頂きました。何よりも金庫の皆さま、近隣地域の皆さま、同行訪問させて頂いた取引先のお客さまなど、数えきれないほどの多くの方々との出会いは私の大きな財産です。人は人によって支えられ、人と人が繋がることによって新たなイノベーションを起こすことができることを肌で感じました。この貴重な経験を今後教育現場の様々な場面で還元できるよう、組織人としての意識を持ち金庫で学んだ創意と工夫を持って、バイタリティあふれた行動に努めていきたいと思っております。受け入れていただきました静清信用金庫の皆さまに感謝いたします。ありがとうございました。



協立電機株式会社

研修期間：令和2年4月1日～令和3年3月31日

所属/氏名：県立掛川工業高等学校 教諭 杉村 竜也

研修の内容

- 1 FA (Factory Automation) システムに関する研修 (4月から6月)
 - (1) 仮想化ソフトウェア等業務に係るソフトウェアのインストール及び基本的な使用方法
 - (2) 各種システム及び装置に係るソフトウェアの開発演習 (PLC (Programmable Logic Controller)、SCADA (Supervisory Control And Data Acquisition)、C#)
 - (3) 浄水施設の監視制御画面の更新作業補助
- 2 産業用ロボットに関する研修 (7月から9月)
 - (1) CAD (Computer Aided Design) による設計、3DCAD によるモデル作成、2D から 3D モデルへの変換
 - (2) 画像処理システムの改造 (既設システムのプログラム解析及び修正)
 - (3) 産業用ロボット教示作業補助 (施設入口のデモンストレーション動作作成)
- 3 検査装置に関する研修 (10月から12月)
 - (1) VBA (Visual Basic for Applications) による検査装置内の機器間通信のメッセージ検証用 Excel マクロの作成
 - (2) 検査装置のシステム提案に係る資料及び図表の作成
 - (3) モータ検査装置を監視操作するタッチパネルの表示画面作成
- 4 PA (Process Automation) システムに関する研修 (1月から3月)
 - (1) DCS (Distributed Control System) の構成及び操作方法
 - (2) DCS ソフトウェアの改造 (薬品ラインの追加、薬品コンテナ移送の自動シーケンス化、デバッグ及びテスト)
 - (3) 既設システムのシーケンス解析、仕様書との整合性検証及び修正
- 5 その他の研修
新人研修参加、Web セミナー受講、グループ企業及びシステム導入先訪問、部内勉強会発表

研修を終えて

1 はじめに

私は、生徒に対して進路指導を行う際、就職・進学に関係なく、どのような理由で選び、どんなことをやりたいかを深く考えさせている。それが、自分で責任を持って進路を選択することの第一歩だと思うからである。しかしながら、私は民間企業で働いた経験が無く、その実態についてほとんど知らない。システムエンジニアについても、関心がある生徒は多いが、私も含め具体的な業務を理解している者は少ない。そこで、システムエンジニアの仕事について理解を深め、また、企業内教育、キャリア形成及び企業が求める人材を知ることにより具体的で実態に即した進路指導を行いたいと考え、この研修に臨んだ。

2 研修先の概要

協立電機株式会社は、1959年に設立され、IoT (Internet of Things) とFAを融合したインテリジェントFA技術を基盤に、お客様の課題 (自動化、省力化、省エネ化など) に対して、最適なシステムの提案、導入、メンテナンスまでを一貫して提供している。取り扱うシステムは、FA、プロセス制御、生産管理、AI (Artificial Intelligence) ・IoT、計測や検査装置など製造業を中心に、トンネル工事等の土木システム、ビルの設備管理、浄水設備の遠隔管理及び研究開発作業の効率化など、産業全般にわたる。また、自社ブランド製品の開発、

設計及び製作も行っている。

3 研修を終えての感想

(1) システムエンジニアの仕事

実際に業務の一部を担当させていただいたり、社員の皆様の働く姿を拝見したりするなかで、開発だけでなく、お客様の要望を聞きシステムの全体像を決定する要求定義をはじめ、詳細設計、テストや運用・保守に至るまで、多岐にわたる業務を行っていることを知った。また、一つの案件に対して一人で担当することが多いと考えていたが、JOBリーダーが中心となって役割分担を行い、チームで協力して作業していた。さらに、営業の方と打合せを行ったり、システム導入先の担当者や情報共有したりと、高いコミュニケーション能力が求められる仕事であることがわかった。システムエンジニアの仕事は、非常に幅広い上に奥深いため、全てを理解することはできなかったが、その一端を理解することはできたと思う。

(2) 企業内教育、キャリア形成

新人教育に関しては、4月の全体研修のほか、各部署の教育も受けることができた。全体研修では、新人に対して、学校と企業の違いや、自分から知識や技能を獲得する姿勢が大切だと話があった。部署ごとの教育では、社内のコーディング規約や仕様に合わせて開発できるように、教育担当者が丁寧かつ厳格に指導していた。これにより、チームの誰が見ても素早く内容を理解でき、複数人による作業が円滑に進むのだと知った。また、一つの課題に時間をかけることで、新人が自ら考え、必要な資料を探したり、質問したりする経験を積ませていることがわかった。キャリア形成に関しては、個人の能力や成果に応じて、与えられる業務の裁量と責任が変化していた。また、Webセミナーの受講といったスキルの向上をサポートする環境が整備されていた。一人前になるには10年を要すると伺ったが、新人からそこに至るまでの教育やキャリア形成は充実していると感じた。また、社内教育やキャリア形成について、これまでより大幅に深く理解することができた。

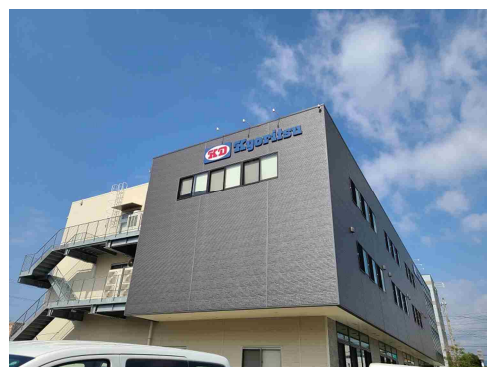
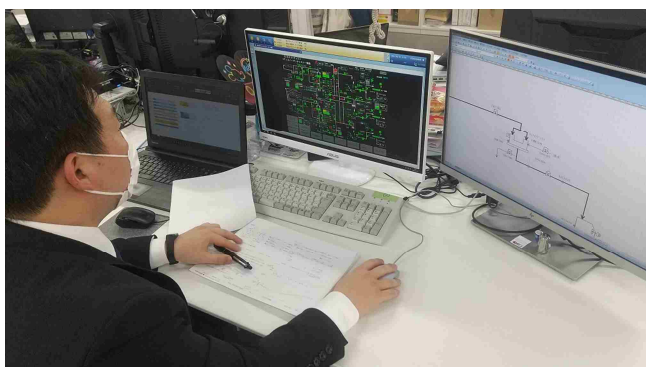
(3) 企業が求める人材

各部署で取り扱う分野は異なっていたものの、求める人材として共通していたのは、挨拶をすること、教える際はメモを取ること、書類は丁寧に記入した上で確認して提出することなど、社会人としての基本的なスキルだった。そして、自ら前向きに業務を行い、常に新しい技術を取り入れて成長しようとする姿勢や熱意が大切だということだ。これらは、以前から重要だと感じていたが、社員の皆様のお話を伺い、より実感することができた。

4 おわりに

この研修を通じて、進路指導で不安に感じていた、企業内の取組や働き方について、理解を深めることができた。また、最適なシステムを追求し、時間を問わず現地に赴いてサポートを行うなど、常にお客様に寄り添う姿勢に感銘を受けた。これら研修で得たことを、一つでも多く生徒や教員に伝え、社会に貢献できる人材を送り出す一助となるよう努めたい。

さいごに、厳しい社会情勢の中、本研修を快く受け入れていただき、また、複数部署での研修など私の希望に対して、最大限ご配慮くださった協立電機株式会社の皆様をはじめ、グループ企業や関わっていただいたすべての皆様に、厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。



株式会社ゴトー ブックオフ函南店

研修期間：令和2年4月1日～令和2年9月1日

所属/氏名：県立御殿場特別支援学校 教諭 鈴木 泰洋

研修の内容

- 1 ブックオフに関する基本的な4つの業務に関する研修
加工 本、CD、DVD、おもちゃ等買い取った品物をきれいにし、値段をつけて商品にする。棚の状況や買取済みの商品の様子から判断して、効率良く加工作業を行う。
販売 レジでの販売業務。お客様と直接接して商品を買っていただく。レジでの接客時の言葉遣いやレジの混み具合を見ての対応を身につける。
買取 お客様がお持ち頂いた品物を受け取り、商品になるかを判断しパソコンを利用して買取値段を算出する業務を覚える。
補充 買取後、加工した商品を種類ごとに棚に補充する。マニュアルに沿って効率の良い補充のやり方を覚える。
- 2 基本的な業務以外の研修
見出し整理 陳列棚の見出しを整理したり、抜け落ちて見出しを見つけて作ったりする。間違っていて陳列されている商品を正しい並びに入れ替える。
棚卸 半期に1度、店内の商品の数を数えて店舗の商品数を調査管理する。商品ごとの総数をデータ上と比べ差異を把握する。

研修を終えて

1 はじめに

私は、今回の民間企業等長期派遣型研修で研修先を考える上で、接客業を行っている企業を中心に希望させていただいた。接客業は特別支援学校の生徒が卒業後の進路先として希望が多い業種の1つであるため、実際に研修先で自分自身が業務を体験したり、多くの人の話を聞いたりすることで、企業側が求める人材がどのようなものなのか、またどのような能力が必要なのかを学べる良い機会だと考えた。

いくつかの企業を研修先の候補に挙げさせていただいた中で、株式会社ゴトーが経営されている「ブックオフ函南店」が研修を受け入れてくれたと報告を受けた時、嬉しさと同時に不思議な巡りあわせも感じた。私が大学生の時、初めてアルバイトをさせていただいた企業が株式会社ゴトーの新規オープンする「ブックオフ秦野渋沢店」だったからである。

学生の時、バイトした企業から20年近く経って、改めて研修をさせて頂く機会をいただき、昔とどのような点が変わっているのかという視点でも今回の研修から学ぶことができるのではと不安より楽しみが勝った状況で研修に臨むことができた。

2 研修先の概要

株式会社ゴトーは「紳士服のゴトー」としてスーツを始めとするビジネスアイテムからブルゾンなどカジュアルアイテムまでをトータルでコーディネートする紳士服店として起業し、その後、研修先である「ブックオフ」や「TSUTAYA」などのフランチャイズ加盟店として幅広く経営を行っている。

紳士服ゴトーが経営する「ブックオフ」は、埼玉から京都まで29店舗あり、メイン商品である本以外にも、CD、DVD、ホビーなどの品物をお客様から買い取り、加工(商品を綺麗にメンテナンスして値段を付ける)して陳列し、販売を行っている。また、静岡と神奈川の6店舗にはゴトーオリジナルブランドであるゲームやトレーディングカードの新品や中古を取り扱う「メディアポリス」を併設している。今回私が研修をさせて頂いた「函南店」もメディアポリスが内設された店舗である。

3 研修を終えての感想

研修当初、特に苦労したのは接客時の言葉遣いだった。私自身学校の教員として生徒や保護者と接する際に言葉遣いや身だしなみ、態度など意識しながら行っていたため、言葉遣いに関してはある程度出来ている自信はあったが、接客の際の言葉遣いは細かな所で違いがあった。スタッフの方からアドバイスをいただいたり、ブックオフのマニュアルを読み返したりしながら繰り返し実践を繰り返すことで、段々と身に付いたが、この様なことは実際に体験しなければ分からないことだと感じた。

以前アルバイトをしていた時とは大きく違っていたこととしては、IT機器の活用が増えたことである。買取の際の商品の読み込みはバーコードを通すことで値段を調べることができるようになっていたり、値札もバーコードを通すことでシールになって出てきたりなど、様々な面でIT機器が活用されていた。

研修を続ける中で、特に大切だと感じたことは3つある。

1つ目は「メモをとること」。メモを取ることは、普段から行っていることだが、研修を受けて新しいことを学ぶ時や日々の連絡事項などメモを取る機会が多く、後で確認しやすいように簡潔に要点をまとめて書く技術が必要だと改めて感じた。

2つ目は「マニュアルの確認」で、研修初日に店長さんからマニュアルを頂き、業務の際には常に携帯していたが、マニュアルにはブックオフでの業務の重要事項だけでなく、業務を円滑に効率良く行うための情報が凝縮されており、困った時はこまめに確認するようにしていた。

そして最後は「スタッフの方との連携」である。何かあれば相談するだけでなく、様々な状況に対応できるように他のスタッフの方と連携して業務に当たらなければ、円滑な業務が行えないため、確認や報告等を行う機会がとて多かったと感じた。

研修も後半になってくると、繰り返し業務を行ってきたことで段々と周囲のスタッフの動きやお客様の流れを見ながら、カウンター内で他の業務に当たっていてもレジや買取にお客様が来るとスムーズに入れるようになったり、自分から次の業務を見つけて動けたりできるようになり、段々と落ち着いて行動できるようになってきた。その中で、お客様から探している商品を聞かれて案内をするなど、より多くのお客様に接することができるようになった。仕事終わりや休日には、お客様が求めている商品を知るために、人気の本や新刊の情報を本屋やインターネットで調べる等、自発的に色々な情報を収集する機会も増え、接客業の楽しさを感じる事ができた。



4 おわりに

今回の研修は、新型コロナウイルスの感染拡大という異例の状況下でのスタートとなり、研修に対して意気込みはあるが、不安も抱えたままの立ち上がりでした。研修先であるブックオフは、本やDVD、ゲーム等を取り扱う場所のため、コロナ禍での巣籠需要や外出を控える人達が自宅の片づけをして出た本などの買取が増えるという状況でした。しかし、店長やスタッフの方々に支えられ、共に協力しながら研修先の感染症対策に取り組む様子を体験でき、今では貴重な体験になったと考えています。

研修を通じて、学んだ知識や体験は何事にも代え難い素晴らしい物になったと思います。この知識や体験を自分の糧とするだけでなく、接客業を進路に考えている生徒や指導する先生方に還元していきたいと考えています。また今回お世話になった株式会社ゴトー様やブックオフの方々とは、店長さんやスタッフの方を学校に招いて接客についての講義を行ってもらったり、職場体験や職場見学の機会を設けてもらったりなど連携してできることを模索しながら、今後も継続して協力体制を築いていければと考えています。

最後に、この様な状況の中、研修継続のために温かくご指導し、支えてくださったブックオフ函南店の岩見店長を始めスタッフの皆様、そして研修中にブックオフ函南店にご来店いただいた多くのお客様に改めて感謝を申し上げます。

皆様のおかげで素晴らしい研修になりました。本当にありがとうございました。

遠州鉄道株式会社

研修期間：令和2年4月1日～令和2年9月30日

所属/氏名：県立浜松特別支援学校城北分校 教諭 松本 靖正

研修の内容

- 1 遠州鉄道の運行するバスに乗車し、路線の理解をした。
- 2 乗車券センターでは、ナイスパスと呼ばれるチャージ式の乗車券やお客様が求める定期券を作り販売した。
- 3 忘れ物コーナーでは、お客様から問い合わせのあった忘れ物をナイスパスを元に検索した。お客様のナイスパスの記録や申告を頼りに該当するバスを特定し、忘れ物を検索した。
- 4 各営業所に届く忘れ物や営業所同士の書類のやり取り及びその輸送や管理に取り組んだ。
- 5 問い合わせのあったバスの乗り場や時刻の案内及びバス停の時刻表の印刷を行った。

研修を終えて

1 はじめに

私は、遠州鉄道株式会社のバスターミナルにおいて、実際に働く中で、また従業員のみなさんにアンケートを実施することで主に以下の3つについて学びたいと考えた。

- ・生徒の進路指導を進める上で、企業が求める生徒に必要な資質や能力を理解する。
- ・組織のマネジメントの仕方やミドルリーダーとしての役割を企業から学ぶ。
- ・生徒の安全や防災のために企業の安全確保や防災について学ぶ。

2 研修先の概要

遠州鉄道株式会社は、遠州地方を中心とした路線バスの運行やバンビツアーと呼ばれるバス旅行ツアー及びewingと呼ばれる空港までの輸送事業がある。さらに、鉄道事業があり関連するものとして不動産、保険、介護事業と多岐に渡る事業を営み、古くから地域に根差した企業である。

3 研修を終えての感想

(1) 企業が求める生徒の資質や能力

実際に働く中で感じたことや周りで働く従業員の皆さんから感じ取った企業（現場）が求める生徒の働くための資質や能力は以下の通りであった。

- ・意欲を持って働くことが大切である。その上に責任感や協調性がある。
- ・自分の仕事や職場を好きになることが重要である。
- ・自分一人ではなく会社組織の中の自分であるというマインドを持って行動すること。
- ・会話をする中で、自分を表現できる力と話を聴いて相手のことを知ろうとする力。

(2) 組織のマネジメントについて

同世代の主任（ミドルリーダー）の方々や所長（業務課の長）の業務に取り組む様子やアンケートを実施して学んだことは、以下の通りである。

- ・相手の立場に立って物事を考えることを重んじる。（お客様、同僚、取引先...）
- ・人の良い所を見つけ、それを褒め、頼ることで自信を持たせ、その人を成長させる。
- ・相手に興味を持ち、より深く知ろうとする。そのために目を合わせ、自分から挨拶や言葉掛けをすることを意識している。
- ・自分の業務だけに集中せず、周りを見て組織全体のことを考えて行動することを心掛けている。

また、会議の持ち方は、それぞれの業務課の長が一堂に会し、そこでの決定事項や連絡事項が各業務課のメンバーに伝えられていた。ガルーンと呼ばれる業務課同士や社員同士の情報共有ソフトがあり、そこで必要な情報が共有されていた。学校現場では、（分掌会 運営委員会 職員会議）などと段階を踏み、尚且その他の会議も並行して行われていて大勢が一定時間縛られることになる。しかし、企業においては、その他の従業員は業務に集中し、会議の決定事項は全員に共有されるシステムとなっていた。

(3) 安全教育・防災について

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、窓口のカウンターや現金トレー等のお客様が触れる箇所及び従業員の触れる窓口周辺のアルコール消毒を2時間毎に行っていた。営業所に帰還するバス車内もアルコール消毒が徹底されていた。また、新型コロナウイルスがここまで拡大する前から危機感を持ち、窓口にアクリルパネルを設置するために社員が主体的に動き、現場に合った物を探し出して、レスポンス速く対応していた。一人一人が現場レベルで考え、判断し、実行する力があると感じた。

(4) 働き方の違いについて

遠州鉄道バスターミナルは、創業以来止まることなくずっと動き続けているため、従業員一人一人が定時まで責任を持って勤務することで現場を守ることが徹底されている。定刻になると、周りの従業員から「お疲れさまでした。」などと声を掛けられ、帰宅を促される。終業後の時間を充実させて、新鮮な気持ちで翌日の仕事に臨むことが大切にされていた。休憩時間も周りから取るように促されるため、確実に休息し気持ちを切り替えて働くことができた。

(5) これからの働き方について

新型コロナウイルスの影響を受け、遠州鉄道においても、組織の再編が行われていた。バンピツアーと呼ばれる観光バス業務、ewingと呼ばれる空港までの輸送業務が中止となり、バスガイドやドライバー等の人材を他の業務課に異動する様子を目の当たりにした。

今後は、新しい生活様式をはじめ、働き方や社会が求めるサービス自体も変化していくことが想定される。実際に路線バスにおいても座席が限定されていたりドライバーと乗客の間に飛沫防止のシートが設置されたりしている。また、乗車券センターではアクリルパネルの設置や2時間おきの消毒も実施されている。業務上の問題を把握し、現場レベルで考え、対応する力が求められる場面が多くあった。

生徒について考えると、今後は職場でより主体性を求められるようになっていくと感じた。任された仕事を終わったら次の仕事を求めることや、仕事を探したり作ったりするスキルも求められるようになっていくと考えられる。また、分からないことは、自ら聴いたりマニュアルを調べたりして主体的に解決できる力を身につけさせたいと考えた。



バスターミナル内忘れ物コーナー



勤務最終日「卒業式」を実施していただきました

4 おわりに

本研修を通して、遠州鉄道株式会社の方々から様々なことを学んだ。そして、民間企業で働く大変さを肌で感じた。お客様のニーズに応えられると感謝され喜びを感じた。反面、それに応えられなかったときや不十分なときはお叱りやクレームを受ける。現場ではそういう緊張感の中で、お客様に対して気持ちの中では熱くありながら冷静に確実な案内やサービス提供がされていることを学んだ。そして、コロナ禍の大変な時に研修を受け入れてくださった職場の皆さんには心から感謝している。

また、生徒が就労する視点から企業が生徒に求める力についてこれまで生徒に伝えてきたことと一致する部分が大きかったが、アンケートの内容は、どれもとても重要であり、現場の生の意見が聴けてとてもありがたかった。ここで学んだことを学校現場に戻って、同僚や生徒に還元し、よりよい学校組織を作っていきたいと今とても強く感じている。

株式会社Z会

研修期間：令和2年5月1日～令和2年10月31日

所属/氏名：函南町立東中学校 教諭 後藤 卓

研修の内容

- 1 「協働学習」の教材作成
 - ・毎月1つのテーマに関して協働学習で使用する教材を作成（共有資料・資料A,B,C）
- 2 Asteria総合探求講座運用
 - ・「協働学習」を予約している受講生へのリマインドメール送信
 - ・講座運用に必要な情報の確認・更新作業
- 3 事後課題返却
 - ・協働学習に参加した受講生から提出される事後課題の添削をファシリテーターへ依頼
 - ・ファシリテーターから返却された内容を確認し、各受講生へ返却
- 4 「協働学習」振り返り配信
 - ・セッション監督やファシリテーターと共に、教材の意図や協働学習の様子、提出された事後課題の内容などをオンラインで配信（リアルタイムでの質疑応答）

研修を終えて

1 はじめに

私は、社会に出てから教員しか経験したことがなく、教員の世界での当たり前しか見聞きしたことがない。本研修を通して、民間企業ならではの連携のとれた組織運営や最新の情報共有システムなどを学び、円滑な学校運営や教科指導に活かしたいと考えた。教育を取り巻く学習環境が急速に変化する時代において、社会変化に柔軟に対応できる発想や視野を身につけ、「教育」を今までとは違う側面から見つめる絶好の機会だと思い、本研修に臨んだ。

2 研修先の概要

株式会社Z会は、企業本社を三島市文教町に置き、株式会社Z会エデュース、株式会社Z会ソリューションズ、株式会社Z会CA、Z-kai USA Inc.の4社を含め、「Z会」と総称されている。Z会のグループ理念は“最高の教育で、未来をひらく。”

通信教育を中核の事業として発展させながら、教室事業、出版事業など様々な業態に拡大。通信教育では、タブレットやスマートフォンを活用したデジタル学習サービスも提供している。教室事業では、首都圏・関西圏のほかに三島でも「Z会進学教室ラボラトリ三島」を展開している。



3 研修を終えての感想

(1) 連携・情報共有

研修に入っただけで、企業内外の連携や情報共有の迅速さ、確実性に驚かされた。社内では、Google が提供するクラウドツールのG Suiteを活用し社員同士の情報共有を行っていた。他部署だけでなく、県外など離れた場所にいる人ともMeetなどを活用し、打合せをすることも多く、検討事項について意見を出し合い、その場でお互いに文書を編集したり、業務の進捗を確認したりと複数人で効率よく作業ができると実感した。

学校でも、G Suiteを活用すれば年度当初などに発生する資料の大量印刷や、配布作業の必要がなくなり、印刷にかかるコストや時間の削減につながると感じた。また、保護者や地域に向けたアンケートの集約や配信、教員に向けた行事や学期・年度末反省の取りまとめなども容易に行うことができるので業務効率の向上にもつながる。さらに、蓄積したデータは分かりやすくグラフ

や図として活用できるので、視覚的に経年変化を追いやすくなり、単に例年の学校行事を踏襲するのではなく、全体の流れを見通した上で、行事の見直しや活動内容の吟味をすることができるのではないかと感じた。

(2) 企業の姿勢

企業研修は、私自身の勤務時間に関する認識を見直すきっかけになった。企業では時間も「資源」と考え、「どの仕事にどれだけの時間をかけているか」をデータに登録することで、企業全体の流れを把握したり、社員の長時間労働を防げたりする仕組みになっていた。また、利益を生み出さなければならない企業にとって、時間はコストに直結するので、これらデータは次年度の予算や人員配置などに活用されることを教えていただいた。

勤務時間や1つの仕事にかかる時間については、学校と企業で認識に違いがあったと感じた。教員には残業という概念があまりなく、つつい生徒や児童のためと思って、多くの時間を割いて必要以上の仕事をしてしまうこともあるだろう。企業では、時間を守るのは大前提であって、それから内容の質を高めていく。例えば、ある教員が行事運営を任されたとして、その行事が満足する内容であっても、その準備のために毎日長時間労働が仮に1か月続いてしまうと、企業の評価は決して高くはないだろう。むしろプロジェクトで得られる利益とそれに対する残業代や必要経費などの便益を考慮すると低評価になる場合もあることを改めて認識することができた。

任された仕事の多くは、1人だけでできるものばかりではない。仕事を抱え込まず、周りの教員に助けを求めたり、逆に困っていたら声を掛けたりと互いに支え合いながら同僚性を高め、学校全体で協力して乗り越えていきたいと思った。

(3) 「最高の教育」へのこだわり

Z会を利用するお客様は、義務教育とは違い、お金を払って「教育」を享受している。こういったお客様に対して、受講を継続してもらえよう、企業として何ができるかを考え、努力し続ける姿勢に感銘を受けた。

私が研修業務として主に関わったAstera総合探求講座には3つの学習がある。「協働学習」は受講者どうしでオンライン・ディスカッションを行い「主体的・対話的で深い学び」をオンラインで実現することで課題解決や協働のために必要なスキルを身につける学習。

「個人学習」はコミュニケーションや問題解決に必要なスキルや知識を養うための映像講義を見て、即時判定可能な確認問題を解く学習。「探求学習」は社会の第一線で活躍する方の講義をアプリ内で視聴し、社会の課題や自分が将来どのように貢献できるかを考えるきっかけとする学習である。

協働学習では、受講生はタブレットを通して音声のみでやりとりをするので、直接に受講生の顔を見ることができず、表情を手がかりに指導・支援することができない。だからこそ、画面の向こうにいる受講生に「最高の教育」を提供するため、資料や図、テキストなど、1つ1つ細部の表現にまでこだわって教材を創り上げる企業の姿勢は見習いたいと思った。

学校の授業では、当たり前のように目の前の生徒の反応や表情を見ながら授業を行ってきたが、企業研修で通信教育に携わったり、コロナ禍での教育を考えたりすることを通して、生徒と同じ空間で一緒に授業ができることがとても幸せなことだと改めて痛感した。目の前の生徒の素直な反応を見て、次の授業が少しでも良くなるよう日々の自己研鑽に励んでいきたい。

4 おわりに

半年という短い期間であったが本研修を通して、教員生活では得られなかったであろう多くのことを学んだ。その一つがつながりである。本研修で関わった方々のおかげで教員としての視野を広げることができた。今後は学んだことを単なる知識として終わらせることなく、実践として積極的に活用していき、生徒や教員、学校へと還元していきたい。

最後に、本研修を快く受け入れていただき、丁寧に指導してくださった遠隔指導課の皆様をはじめ、株式会社Z会の皆様に深く感謝いたします。本当にありがとうございました。



はごろもフーズ株式会社

研修期間：令和2年4月1日～令和2年9月30日

所属/氏名：焼津市立和田小学校 教諭 寺尾 義一

研修の内容

人事厚生部に所属し、主に採用関係、新入社員研修、育成者研修に携わる。

<具体的な業務>

- 1 採用に関わる研修
 - ・入社志願書のPDF化作業
 - ・WEB面接への招待メール送付
 - ・SPIデータ分析
 - ・採用面接（1次WEB、2次対面、最終受付）
 - ・新工場現業員採用面接
 - ・新入社員への就職活動時におけるヒアリング調査と今後の採用活動における提案 等
- 2 新入社員研修に関わる研修
 - ・各種工場への工場見学同行
 - ・提出されたレポートの内容確認
 - ・工場勤務時における勤務態度の振り返り
 - ・研修内容検討と研修の運営 等
- 3 育成担当者研修に関わる研修
 - ・育成計画書と報告書の内容確認、ヒアリングによる育成制度の成果と改善点の洗い出し
 - ・育成担当者研修の企画
 - ・育成計画書・報告書の新書式の作成
 - ・オンラインによる育成担当者研修の運営
 - ・受講者アンケートの集計 等

研修を終えて

1 はじめに

私は中学生の時から、小学校の教員が将来の夢だった。そのため、なりたい職業に教員以外は選択肢になかった。小学校教員として働き、キャリア教育を進める中で、世の中にはたくさん職業があり、それぞれにやりがいや魅力があることを感じた。今回、半年間、民間企業で業務をする機会をいただき、実際にこれを体験できることとなった。また、今社会が求めている力、小学校段階において大切にすべきことを民間企業の業務に携わりながら見出そうと努めることとした。

2 研修先の概要

はごろもフーズ株式会社は静岡に本社を置き、主力製品に、シーチキン、シャキッとコーン、パパッとライスがある。全国に支店・営業所があり、ツナ缶詰の全国シェア率は非常に高い。商標登録されているシーチキンの年間消費量は約3億缶で、これは1秒間に約9缶が消費される計算となる。



3 研修を終えての感想

(1) プロの仕事

採用活動や育成担当者研修に関わる業務を行う中で、企業が人材育成に力を注いでいることが分かった。育成者研修の参加者アンケートから、それぞれが具体的な育成方法を強く求めている内容が多く見られた。また、他社の採用条件を調べる中で、各社ホームページには短期・中期的な人材育成制度が掲載されていた。さらに、新入社員に実施した就職活動時のアンケートには、会社の志願基準に育成制度の充実度があった。これらのことから、世の中全体が人を育てることを重要視していると感じた。

企業は、利益を得るために緻密な市場データ分析を行い、これに基づいた製品開発・販売提案などを行っていた。食や販売に関する専門的な知識を知り「食品を販売するプロ」だと感じた。また、教員は日々子供の様子や目標から充実した学習が行われるように活動を組み立て実行している。今回、研修の中で私自身、新入社員研修や育成担当者研修時にこの経験を活用することができた。改めて教員は「人を育てるプロ」だと実感した。

(2) 社会が求めている力

社会が必要としている力として、円滑な人間関係を構築する力、学ぶ意欲の2つを感じた。

1つ目の円滑な人間関係を構築する力は、企業では業務を行ううえで欠かせないことが分かった。工場勤務におけるトラブル回避、初期対応において「報告・連絡・相談」が非常に重要になる。些細なトラブルが大きな損益につながる場合がある。また「あいさつ」は、営業活動を行ううえで、業務上関わる人と良好な人間関係を構築する第一歩として重要とされていた。

2つ目の学ぶ意欲は、就職してから習得しなければならない知識や技能が多いことから大切であることがわかった。自社製品に関わる知識、営業活動に必要なパソコンスキル、社会人としてのマナー等、これらは社内研修で取り扱うが、内容が多岐に渡るため全てに十分な時間を割くことは難しい。しかし、これらが身につけていないと業務に支障をきたす可能性がある。社会に出るうえで、自分から積極的に学ぶ姿勢が身につけていることが重要だと感じた。

小学校教育において、身につけさせるべき知識や技能だけではなく、社会人として必要な力の土台となる部分が身につくよう長期的な視点をもちながら教育活動を行っていききたい。そのために、友達との関わりを大切に活動や学びの実感を味わえる授業を行うよう努めていききたい。

(3) 学習の積み重ねの大切さ

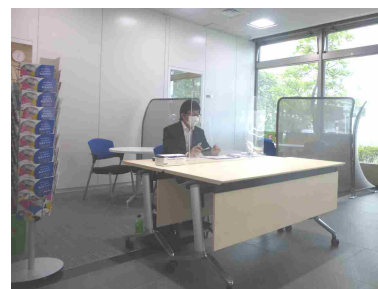
新入社員研修に関わる業務では、新入社員に自己課題を整理し、それに応じた研修プログラムを計画・運営する機会を与えた。新入社員は、製品知識を習得するために自社製品と他社製品の食べ比べをしたり、基本的マナーを身に付けるために名刺交換、電話対応の演習を行ったりした。

また、採用面接における学生の自己PRの中では、アルバイトでお客様に納得して洋服を買ってもらおうと、試着をして製品の特徴を整理したり、お客様のニーズを把握し販売方法を改善して売り上げを伸ばしたりと、彼らの経験を聞くことができた。

これらの業務を通して、新入社員や学生が自分たちの課題点を冷静に分析し、それを解決するための方法を計画・実行する力が身につけていると感じ、彼らが小学校卒業から現在に至るまでの間に、必要な力を積み重ねてきたことが伺えた。

他にも、新入社員研修の中で、新入社員が内容を要約する力、自分の提案をわかりやすく伝える力など教科としての力が身につけていることも感じる事ができた。学校教育において、該当学年の身に付けさせたい力を確実に身に付けさせること、これらを系統立てたり繰り返し活用する場面を与えたりすることの大切さを感じた。

これらのことを通して、教員として教材研究を行う時、学年間のつながりや社会に出て活用される具体的な場面を想像することにより、実生活に密着した単元構想をつくることのできるのではないかと考えた。



(4) これからの教育活動の中でできること

日々の活動の中にキャリア教育の視点を意識して取り組んでいくことの大切さを感じた。採用面接をする中で、学生たちは自分の性格、興味や関心などを理解したうえで会社を選んでいることが分かった。自分の性格を客観的にとらえ、どのような会社で働くことがよいか判断しているように感じた。このようなことができたのは、日々の教育活動の中でメタ認知力が身についたからだと思う。これからの社会を生きるには、このような力に加え、上述したように今社会が求めている円滑な人間関係を構築する力や目標に向かって学び続ける力などを育てていく必要があると考える。将来活躍する未来の姿と普段の授業を関係づけながら子供の指導にあたっていきたい。また、子供の良さを学校全体で伸ばすことのできる体制を整える提案等を行いながら、子供一人一人の個性を伸ばしていきたい。

4 おわりに

各種研修に参加させていただき、有意義な半年間を過ごすことができました。社会人となった時点で身につけた力や社会が今求めている力など実際に働く経験がないと得ることのできない経験を得ることができました。また、食を家庭に届ける企業としての専門性だけではなく、教員という職業について改めて考えることができました。私にとって大変有意義な半年間でした。

最後に、新型コロナウイルスの影響により例年と異なる業務の中、様々な経験をさせていただいたはごろもフーズ株式会社の皆様に厚く御礼申し上げます。

企業御感想

研修の初めは、会社や業務について一から学んでもらうために約1か月間にわたる新職員研修に同席することからスタートしました。ここから、先生と新職員の間には大きな信頼関係が生まれました。メンタル面に不安が生じた新職員への対応に人事部員が苦慮する中、先生には高校教諭の力を大いに発揮していただき、新職員にとって良き相談相手としてほぼ一年間に亘り寄り添っていただきました。研修最終月の3月に新職員全員から気持ちを込めた寄せ書きが送られ、如何に慕われたかが伝わってきました。

今回の研修で一番素晴らしい実績は、何といても、先生が中心となって実施できた高校とのコラボ企画です。商店街視察・地域活性化への提案、生徒考案の新商品、マルシェへの出展、そして最終の「研究発表大会」に向けた企画書作成・プレゼンと盛り沢山のものでした。今回の企画は、高校・地域社会・企業の三者が上手くコラボし、理想に近い形で実現することができました。

研修生・受入側双方向にとって大変実り多きものであったと思います。

3か月毎に4部で実務業務を通しての研修を受けて頂きました。

非常に熱心な方で、ご本人の希望によりシステム開発に重点を置いた研修を通し、最終的には案件も担当してソフト構築までして頂きました。

弊社としましても現役の教師の方と接することのできる貴重な経験でしたので、弊社のプレゼン規定に従うプレゼン資料の作成及び発表の場で、「最近の若者の特徴と教育方法」と題して、若者との接し方・ポイント、やる気にさせる方法、教育における注意点などの教師としてのお立場での発表をして頂き、弊社の役職者たちは若手社員の指導方法の一助を勉強させて頂きました。

コロナ禍のためお客様への訪問が出来ず、杉村教諭にお客様からの生の声を直接聞くことや交渉現場をお見せ出来なかったことが残念です。

今後のご活躍を、研修に関った社員一同祈念しております。

偶然にも20年程前に弊社でのアルバイト経験があり、業務の習得はとても早かったです。スタッフさんとのコミュニケーションも問題なく、早い段階で打ち解けていたと思います。勤務態度はとても真面目で、手を抜くことなく、ひとつひとつの業務に真剣に取り組んでくれました。特に大きなミスもなく、店舗としてはコロナ禍で例年よりも客数が多い状況でしたので、大変助かりました。

スタッフさんと一緒になって行動する「売場の改善を行う」目的を業務として与えたところ、売場の検索性を上げる取り組みを実施して頂きました。本来の達成目的までは時間が足りませんでしたでしたが、スタッフさんにとっても同じ目標に取り組んだことがいい経験になりました。

今回の研修で身に付けたことを、ひとつでも多く学校業務に生かしていただき、生徒さんたちの今後の就職活動に役立てていただければと思います。

大型イベントが「コロナ禍」により軒並み中止となったことから、例年であれば実施される業務を体験していただくことができなかったことは大変残念に思います。しかし、予定されていた研修内容と異なる部分があったにもかかわらず、すべての業務に意欲的に取り組んでくださいました。

窓口におみえになる様々なお客様に対する接客では当初苦労されていましたが、指導を素直に受け入れ、目に見える形で成長していられました。そして研修で学んだことを教育の場で生かそうという意欲を感じました。

職場の仲間とコミュニケーションをとり、溶け込んでいただいたお陰で、お互いにストレスなく業務をこなすことが出来ました。美術教師という強みを生かした案内図の作成や、異動する社員へのプレゼントに似顔絵を描いていただき盛り上げてくれたことに、皆感激しています。

研修開始当初はPCやiPadの扱いに苦労することもありましたが、徐々に慣れていったと思います。

学校教諭という立場より弊社お客様へのアプローチに対するご意見もいただくなど、弊社の生産性向上にも貢献いただきました。

一方で学校とは異なる民間企業の速度にやや不慣れなこともあり、もう少し周囲より先んじるなどの積極性があってもよかったのではないかと考えます。

当初は東京事務所等での業務や県外の学校や交流会への参加も検討していましたが、今年度は新型コロナウイルス災禍もあり、そのほとんどが実現できませんでした。そのぶん社内業務にご注力いただきましたが、視野や経験を広げるといった面で寄与できなかったことは弊社にとっても残念な点であると考えます。

明朗、積極かつ謙虚な姿勢を常に保たれ、誰とでもコミュニケーションを取ることができる、素晴らしい人間性を有していらっしゃいました。

新型コロナウイルス感染拡大が進み始めた4月からの研修ということで、当初予定していた各部署を経験いただくということができず、人事厚生部にて、採用・研修・人事関係に半年間携わっていただくことになりました。時に庶務的な業務をお願いせざるを得ないこともありました、「何でもやりますので、言ってください」の言葉にこちらが何度も救われました。

主たる業務として、新卒採用活動と新入社員育成研修の見直しをお願いしました。採用活動では、面接官も務めていただきました。新入社員育成研修の見直しについては、育成のプロの視点から、形骸化していた内容を、書式を含め見直しいただきました。綿密な資料作成、講師として物事を的確に伝える術は素晴らしく、人事厚生部一同、また研修受講者にとって、大変勉強になりました。大げさな表現ではなく、弊社にとって大きな財産をのこしてくれました。

～受け入れてくださった企業のみなさま、貴重な経験をありがとうございました～

(目的)

第1条 この要綱は、教育職員が民間企業等の最新かつ実践的な組織運営、技術、技能、システム等を学ぶことにより、教科等の指導技術や能力等の伸長による児童生徒への指導力の向上、視野の拡大と発想の転換等による意識の改革、時代の変化に対応できる学校づくりの推進等に資するために、教育職員を長期にわたり民間企業等において研修させる派遣型研修（以下「研修」という。）について、必要な事項を定めることを目的とする。

(研修期間)

第2条 研修期間は、原則として1年とする。ただし、研修先等の事情により、1か月以上1年未満とすることも可能とする。

(研修対象者)

第3条 研修対象者は、原則として以下の条件を満たす者とする。

- (1) 市町（地方自治法（昭和22年法律第67号）第252条の19第1項の指定都市を除き、同法第284条第22項の一部事務組合を含む。）立の小学校、中学校若しくは義務教育学校又は県立学校に勤務する教諭、養護教諭、栄養教諭又は実習助手（以下「教諭等」という。）
- (2) 研修を実施する年度の4月1日において、45歳以下で静岡県内において前号の教諭等としての職務経験が5年以上の者
- (3) 研修を実施する年度に、「中堅教諭等資質向上研修」又は「教員免許更新講習」の対象でない者

(研修先)

第4条 研修先は、研修の目的を達成するためにふさわしい民間企業等とする。

(研修生の決定等)

第5条 県教育委員会教育長（以下「教育長」という。）は、研修対象者の中から研修生を決定し、所属長を通じて、研修対象者にその旨通知する。

(研修先及び研修期間の決定)

第6条 研修先及び研修期間については、研修生の特性等を考慮し、所属長と協議の上、教育長が決定する。

(研修生の身分)

第7条 研修生の所属校は、派遣前の在籍校とする。

- 2 研修期間は、教育公務員特例法（昭和24年法律第1号）第22条第3項（教育公務員特例法施行令（昭和24年政令第6号）第10条第2項の規定により準用する場合を含む。）の規定による長期研修のための出張とする。

(研修生の服務等)

第8条 研修生は、研修期間中、研修先の服務規程に従い、研修に専念する。

- 2 研修生は、研修期間中に研修先において知り得た秘密を他に漏らしてはならない。

(給与等の支給)

第9条 研修生の給与及び旅費は、県教育委員会が支給する。

(研修の報告)

第10条 研修生は、研修期間中、毎月、実績簿(様式第1号)及び月別報告書(様式第2号)を作成し、翌月の5日(週休日の場合は翌日以降の週休日でない日)までに所属長に提出し、所属長はその写しを別に定める手順に従い県教育委員会に提出する。

2 研修生は、研修終了日の翌月の20日までに、研修報告書(様式第3号)を所属長に提出し、所属長はその写しを別に定める手順に従い県教育委員会に提出する。

(災害に対する措置等)

第11条 研修中の災害及び研修先への通勤による災害については、県の公務上の災害又は通勤による災害として取り扱う。

(研修の中止等)

第12条 教育長は、次の各号のいずれかに該当する場合は、研修を中止又は中断することができる。

- (1) 研修生の研修実績が著しく不良である場合
- (2) 研修命令に違反する行為、非行その他の理由により、研修生として適格性に欠けると認められる場合
- (3) 研修生の心身の故障のため、研修の継続が困難になった場合
- (4) 研修先を取り巻く状況の変化により、研修の継続が困難になった場合
- (5) 研修先が重大な法令違反行為を行ったと認められる場合
- (6) その他やむを得ない理由により、教育長が研修を中止又は中断する必要があると認めた場合

(協定の締結)

第13条 教育長は、研修に関する協定を研修先と締結するものとする。

(事務主管)

第14条 この要綱に定める研修に関する事務は、教育政策課において行うものとする。

(委任)

第15条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は教育長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、令和2年4月1日から施行する。

令和2年度 民間企業等長期派遣型研修報告書

発行 令和3年12月

発行者 静岡県教育委員会

編集 教育政策課

〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号

054-221-3674

富国 有徳の理想郷—しずおか



ふじのくに

Shizuoka Prefecture